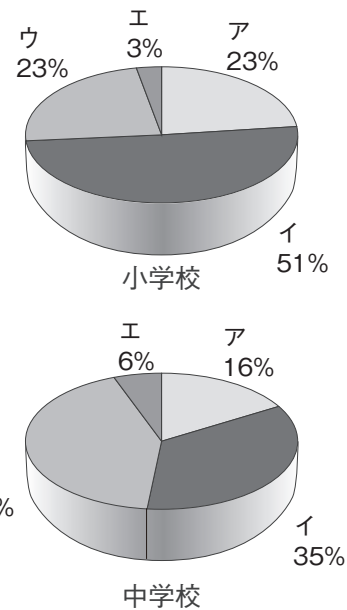
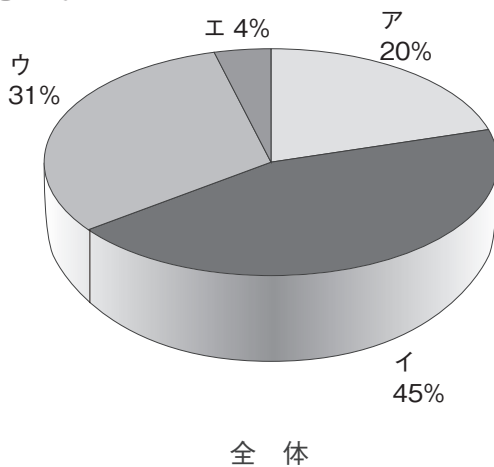



Ⅳ 現行の学習指導要領に基づく教育課程の実施に関して、あなたの感想や考えについてお聞きします。

設問25 現行の学習指導要領では、授業時数や指導内容が多くなったことから、児童生徒の負担が大きくなると心配する意見がありました。実際にやってみて、あなたは、どう思っていますか？（1つ選択）

- ア 全くその通りである
- イ ほぼその通りである
- ウ あまりそうとは思わない
- エ 全くそうとは思わない



 現行の学習指導要領実施によって児童生徒への負担は大きくなった、と捉える教員が多い。懸念が現実になった、と言える。

○ 児童生徒の負担というより、教員の負担増が問題である。

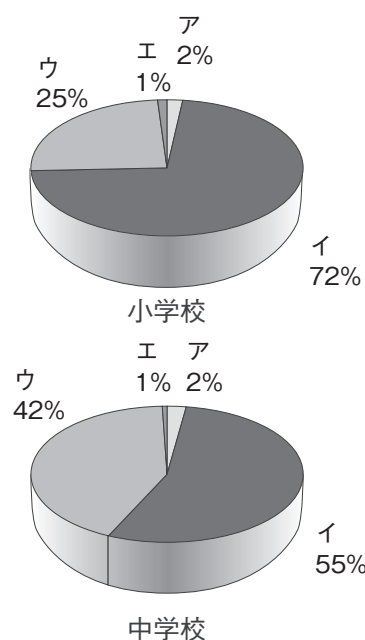
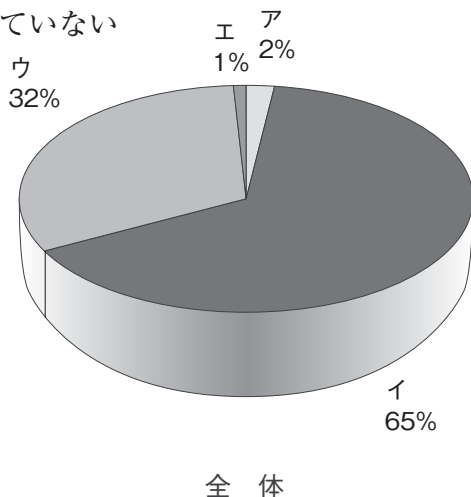
児童生徒の負担が大きくなったと教員はとらえている。

元来、子どもは適応力がある。教員が思っているほど負担が大きいとは思っていないかも知れない。実際のところは、教員の負担が大きくなったのではないか。授業時数が増えたことも大きな要因である。新しい学習内容が増加し、指導法も変わりつつある。

子どもに負担が大きくなったと捉えるなら、その影響が子どものどんなところに現れているのか具体的に指摘したいものである。この調査を機に具体的に議論したいものである。

設問26 現行の学習指導要領では，思考力・判断力・表現力等の育成が強調されていますが，あなたは，ご自身の実践を通して，これらの資質が育ってきていると感じていますか？（1つ選択）

- ア 十分育ってきている
- イ 少し育ってきている
- ウ あまり育っていない
- エ まったく育っていない



☞ 児童生徒の思考力・判断力・表現力は育ちつつあると感じる教員が多い。授業が変わってきた証と捉えられる。

- 「授業が変わった」。教育委員会と学校が一丸となって授業改善（改革）に取り組んでいる成果である。

研修の成果でもあり，いい授業をすることがこのようにデータとして現れたものと歓迎したい。さらに，教員一人一人，学校全体，教育委員会の地道な取組に期待したい。

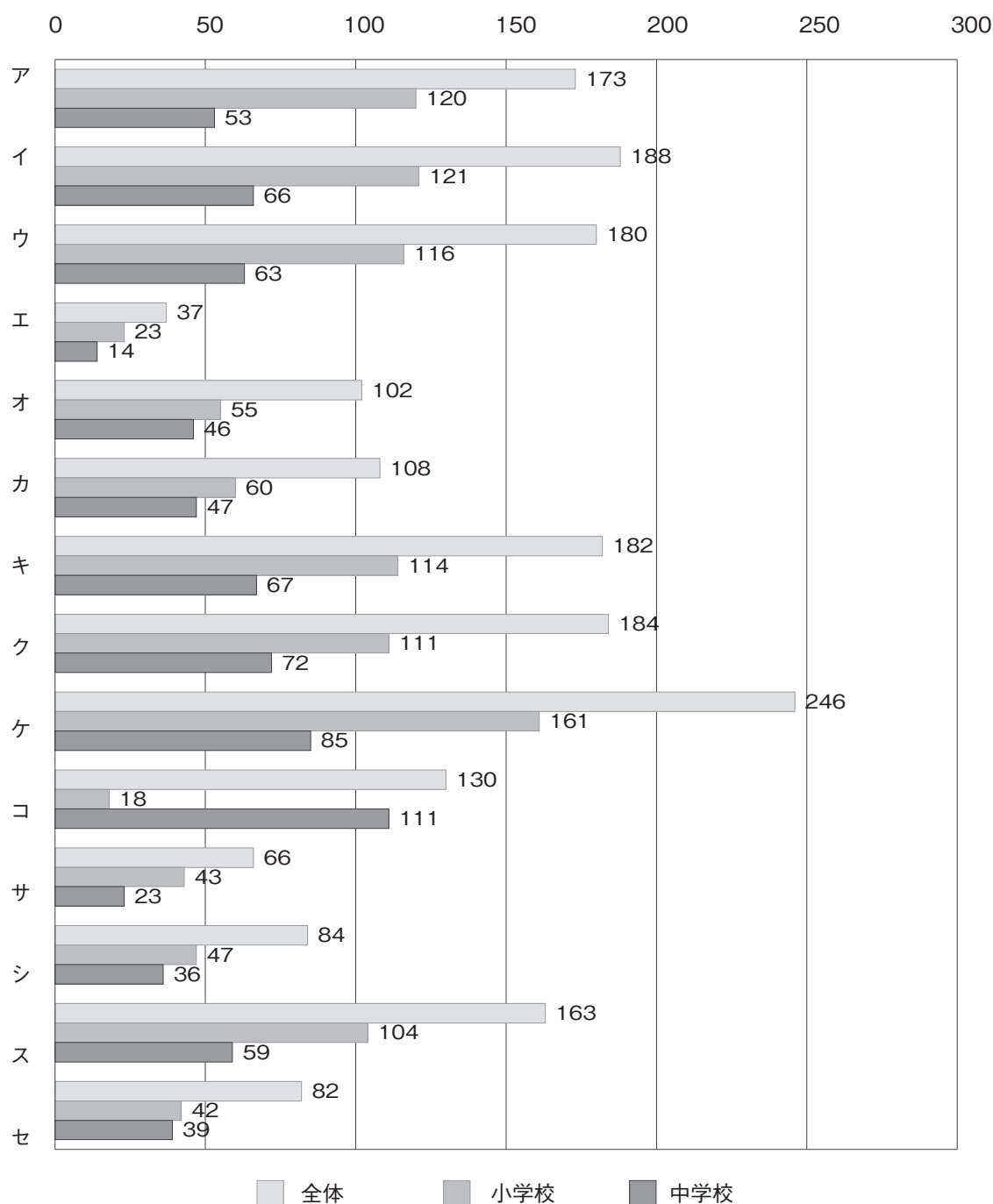
- 「アクティブ・ラーニング」を現実のものに。


この言葉は学習指導要領には明記されず，「主体的・対話的で深い学び」に変わった。しかしながら，アクティブ・ラーニングの視点から授業改善（改革）を図るということは何ら変わるものではない。

「アクティブ」という言葉の意味することを考えてみよう。単純に活動をアクティブなものに変えればよい，ということではない。子どもの頭の中をアクティブにすることなのである。グループ学習，発表会などアクティブな活動を組めばよいのではない。子どもの頭の中をアクティブにするために，どのような活動を組むのか，そこが眼目である。形式に流れないようにしたいものである。

設問27 あなたは多忙化の要因をどのようにとらえていますか。アからスの中で選んでください。(いくつ選択しても構いません)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ア 学習内容の変化・増加に伴う教材研究 | ケ 学校事務 |
| イ 授業時数の増加 | コ 部活指導 |
| ウ 学校行事などの計画立案・打ち合わせなど | サ 職員会議 |
| エ 朝の交通安全指導等 | (各学年部, 各係の打ち合わせを含む) |
| オ PTA行事や活動(計画立案を含む) | シ 校内研修(授業研究等も含む) |
| カ 地域との連携にかかわる活動 | ス 帰宅してからの持ち帰り仕事 |
| (計画立案を含む) | (保護者対応・電話等も含む) |
| キ 児童・生徒にかかわる個別指導や個別対応 | セ その他() |
| ク 保護者等にかかわる対応 | |



 **小中学校でとらえ方が大きく異なっている。学校事務，保護者対応などは何とか解決したいものである。**

- 教員のすべての業務には事務（文書作成）がつきものである。～明確化と共有化～
 多くの要因として，第1位に挙げられたのは学校事務，書類作成である。組織として動き，委託された業務に関して，文書によるのは仕方のない面もある。
 校務分掌等のルーティン化した仕事は，職員全員で共有しなければならない。そして，一つ一つの分掌の仕事が明確になっていることが必要である。また，初めて担当した分掌の仕事が，「年間のいつ，どのような仕事があるのか」について分かることが重要である。「校務分掌シート」を作成するなどして見通しが立てば，さらに効率化を図ることができる。
 教育委員会などへの提出文書が多すぎるというのであれば，それを記録にとり，分析して，交渉するということも必要ではないか。
- 保護者からの要望をいかに受け止めるか，研修しなければならない。
 以前に比較して保護者からの要望は格段に増えている。時として理不尽と感じるものもある。決して自分一人で抱え込まないで，「報告」「連絡」「相談」そして「確認」することを徹底し，「チーム学校」で対処することが必要である。最後の「確認」をおろそかにしてはならない。
 特に，対処の仕方は研修で，特にロールプレイや事例研修などをやることが効果的である。

多忙化の要因についての回答状況			
	全体	小学校	中学校
1位	学校事務	学校事務	部活指導
2位	授業時数の増加	授業時数の増加	学校事務
3位	保護者対応	教材研究	保護者対応
4位	児童生徒個別対応	学校行事	児童生徒個別対応
5位	学校行事	児童生徒個別対応	授業時数の増加
6位	教材研究	保護者対応	学校行事
7位	持ち帰り仕事	持ち帰り仕事	持ち帰り仕事
8位	部活指導	地域連携	教材研究

新潟県教員の勤務の姿・意識プロフィール

〈平日〉

- 朝早く出勤する。
- 授業に、学級経営に力を入れている。中学校教員は部活指導にも熱心である
- 授業の準備をしっかりやりたい、子どもたちとふれあいたいと思っているが、実際は時間が十分になくて困っている。
- 子どもがよくなった時、同僚や先輩からほめられた時、やる気がでる。
- 勤務時間終了後、学校に残り、遅くまで仕事をする。
 - ・ 教材研究やワークシートづくりに励む。
 - ・ 部活動の指導をする。
 - ・ 文書作成が多い。
- 退勤は遅い。
- 家に帰ってからも仕事をする。



〈休日〉

- 1か月に研修や部活動で家を空ける日が何日かある。中学校教員は月5日以上家を空ける教員が70%ほどいる。
- 家で学校や学級の仕事をする。
- 中学校教員は学校に出かけて、部活指導や残った仕事をする。
- 心身のリフレッシュ、趣味を楽しむことは、ある程度はできるが、中学校教員はできにくい。
- 地域行事にあまり参加していない。



〈そんな日々の勤務の中で〉

- 日々、いろいろなことに悩みつつも、指導力向上に努めている。
- 教員生活に満足している。